

中井だより

中井やまゆり園

「禍」を転じて「福」と為す

地域支援課長 荒木 宏治

この4月にさがみ緑風園から異動し、地域支援課長として赴任しました、荒木といいます。

中井やまゆり園（以下園という）で働くのは初めてですが、園とのつながりは33年前県に採用された時の施設交流研修で3日間泊まり込みで、お世話になったことと、以前勤めた、「ひばりが丘学園」の時に関りのあった利用者の方が9名在籍しておられることです。

しかし、4月に赴任して現在も、新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた県の基本方針により、園においてもクラスターを発生させない対応として、家族の方との面会や職員の行動の幅を最小限とし、濃厚接触者の範囲を限定しているため、まだお会いできていない利用者の方もいられるので、通常の園運営に戻り利用者の方と関われるのを楽しみにしています。

さて、この記事を書いている時点では、5月6日までの「緊急事態宣言」が5月末まで延長され、神奈川県は「特定警戒都道府県」として引続き、人との接触を極力8割減すことが求められ、園にとっても利用者の方や家族、職員にも規制が多くストレスがたまる状態が続いています。

園の所在であるこの中井町ではいまのところ、新型コロナに感染された方は「0」のため、職員が感染源とならぬよう、常に危機意識を持ち、最大限のリスクに備えております。

また先日、千葉県の障害者支援施設「北総育成園」で発生したクライスター感染は人ごとではなく、最大の配慮をしたとしてもいつ発生するかわかりません。私も今から28年前「ひばりが丘学園」で朝食のチャシューが原因で利用者・職員が食中毒に集団感染したことがあり、他の県立施設からの職員応援でも職員が足りず、夜勤明けの次の日も夜勤を行い、施設のデイルームにベットが運ばれ、いわゆる「野戦病院化」した経験をしました。

このように福祉施設で感染症が発生した場合、利用者の方も職員もダメージを受けます。

最後に、当園におけるリスク管理としては、日頃から入所者の健康の状態や変化の有無等に留意し、感染の疑いについてより早期に把握できるよう、毎日の検温の実施、体調の確認を行うこととしています。

また、万が一園において新型コロナ感染が確認された場合の対応も、シミュレーションしており、園全体がクラスター状態にならないために、園長が音頭を取り全職員が一丸となってこの難局を乗り切れるよう取り組んでいます。

早く新型コロナ感染が鎮静化し、「禍」を転じて「福」と為すよう願うこの頃です。